



骨を見る目～クジラ化石発見の第一歩

2008年10月22日、がっちりした体格の男性が小さなリュックを肩にかけて研究室に入ってきました。その男性は大きな目でこちらに鋭い視線を向けて、「豊平川で骨を見つけたんだけど…」といいながら、私の返事を待たずにリュックを下ろし中から布に包まれた二つの石を取り出しました。私は、またサンドパイプ（海底に穴を掘って生活していた生物の痕跡）か、貝の化石だろうと期待もせずにその石をのぞき込みました。ところがそこにあったのは明らかに大きな肋骨が1本と背骨の突起の一部だったのです。その男性は自信満々に「これ肋骨でしょう？それはわかるんだけど何の骨ですか？」と、すでに同定済みで私が出る幕もありません。それもそのはず、発見者の森和久さんは札幌大の先生でした。解剖学は学生時代から勉強している、いわば骨についてもプロの方です。これが小金湯のクジラ発見のはじまりです。

翌日、私は森さんから教えてもらった発見場所を確認しに豊平川の中流、小金湯へ出かけました。発見現場はすぐにわかりました。サッポロカイギ

ユウの調査中には何度もあるいた場所です。なぜこれがわからなかったのだろうか？紅葉の写真を撮りに何気なくやって来た森さんには発見できて、化石はないかと這うように歩いていた自分が発見できないというのは、化石の発見はいつも謎めいていて不思議なものです。

そこには腰のあたりの背骨が5個以上連なって露出していました。さらに、周囲を調査すると、第一発見地点から西へ4mほどの岩の中にも骨が見えています。その後の調査で、背骨が8点、肋骨が8点、肩甲骨が1点確認されました。体長は少なくとも10m、もしかすると20mを超えるヒゲクジラになると予測しています。

札幌が海だった時代の生き物たちの様子がまた少し明らかになってきました。浅瀬では大きなカイギュウが群れを作ってのんびりと泳ぎ、沖あいには大きなクジラやイルカたちが潮を吹き上げながら泳ぎ、空にはたくさんの鳥たちも飛び交っていたことでしょう。二本足で歩く霊長類であるヒトが地球上に登場するはるか以前の世界です。

(古沢)



クジラ化石の産状。背骨の一部が連なって見えています。



クジラ化石の発掘には削岩機が初出動しました。

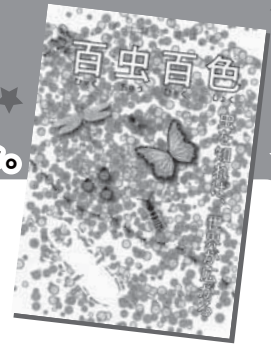
夜間講座

ひやくすむらひやくしよく

百虫百色～虫を知れば世界が広がる～

が終了しました。

講座は地球上最大の生物グループである昆虫の分類のお話からはじまりました。さらに、普段は“嫌な虫”で注目されるガやハエについても驚くべき形や生活を知ることができ、研究者ならずとも私達もちょっと“魅力”や“興味”を感じました。そして、どの回でも先生方が強調していたのが、標本収集の大切さについてです。最終回には昆虫標本の作り方講座を行い、高校生含む大人の皆さんが夜遅くまで熱心に取り組みました。



▲ 標本作製
三角紙からチョウの標本を
そと取り出すところです。

12月11日「昆虫の系統^{もく}～目まで分類～」 大原 昌宏氏 (北海道大学総合博物館准教授)

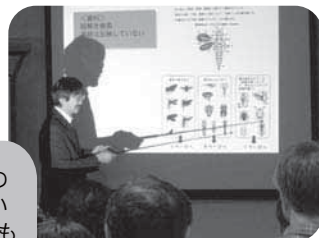
12月18日「甲虫の多様性」 大原 昌宏氏 (北海道大学総合博物館准教授)

'09年

1月8日「ハモグリガの生活」 久万田 敏夫氏 (北海道大元教授)

1月15日「ハエのはなし」 諏訪 正明氏 (北海道大学名誉教授)

1月22日「昆虫標本の作り方講座」 神戸 崇氏・佐野 正和氏 (北海道大学大学院農学研究科)



▲12月11日の様子(大原氏)



▲1月8日の様子(久万田氏)



▲1月15日の様子(諏訪氏)

各先生の研究対象の昆虫への
思いがにじみ出すおもしろい
お話しで、毎回参加された方も
多くいました。



自然科学絵本読み聞かせ
& 学芸員の井戸端サイエンス

学芸員の話とセットで行われている全国的にも例のない博物館での読み聞かせの取り組みということで、08年11月に「子ども放送局」の番組「子どもとしょかん」(独立行政法人国立青少年教育振興機構)の取材がありました。カメラの前で読み手さん達も緊張!番組は09年3月末からインターネット配信予定です。

井戸端サイエンスは、12月は「つかみどころのある」星の数のお話、09年1月は生き物の巣からはじまって動物の親子や家族のお話でした。これまで12月は手作り仕掛け絵本を読んできたのですが、常連さんも増えてきたので今年は別のテーマにしました。★3ヶ月ごとに予定を決めて広報しています。次回は3月28日(土)14時からですよ!



これまでの絵本&学芸員のお話(要約)はコチラ>>

ブログ「じゅごん太の読み聞かせ横丁」 <http://blog.goo.ne.jp/takahashihotate>



クジラ化石クリーニング始まる!

1 ページ目で紹介したクジラ化石のクリーニング作業が始まっています。発掘にも参加した発見者の森さん親子が冬休みにかけてクリーニングに初めてチャレンジ!! 2 月からは発掘をお手伝いしてくださった「札幌自然史研究会」の皆さんにも参加いただき、できるだけ早く皆さんに化石を見ていただけるよう作業中です。クリーニング作業の見学はできます (5 階研究室の奥「洗浄加工室」をのぞいてみてください)。



クリーニング
森兄弟



▲ 脊椎。サイズからクジラの大きさをイメージしてみてください。



クリーニング
森お父さん

▲ 肩甲骨。私達の肩甲骨とは違い、復元すると大きな扇型をしているのが特徴です。

最終回

Note. 4

冬

小さな生きもの、大事な宝もの ～札幌産カタツムリの飼育&観察日記～

また冬眠の季節がやってきました。

8月から9月にかけて卵が孵化してからまもなく、10月下旬には親カタツムリも赤ちゃんカタツムリも動かなくなり、冬眠に入りました。実は、カタツムリは冬だけではなく夏も休眠しています。厳しい暑さや寒さ、乾燥を避けるために体を殻のなかにしまいこみ、殻口に薄い膜を何枚もはって、休眠して過ごします。完全に眠っているのではなく、ときどき起きて動いているようです。たまに飼育箱をのぞいてみると、張り付いている場所から移動して、別の場所に張り付いていることがあります。

もともと海の生き物であった巻貝が陸へと生活の場所を移したのですから、カタツムリにはクリアしなければならない問題がいっぱいです。そして、体の乾燥をなんとか防ぐために足元はいつも粘液で湿らせ、厳しい時期には休眠する方法を編み出しました。

カタツムリが産卵や冬眠をするためには、落ち葉がたっぷり積もり、湿度が保たれた林などの環境がなくてはなりません。私たちの身近な環境が変化するとともに、カタツムリはいつでも見かける“なじみの生きもの”ではなくなってしまったように感じます。ですが、札幌には天然記念物の森や、うっそうと木々が茂る広大な公園が残っています。カタツムリたちが静かに眠る場所を見つけたら、その環境がこの先変わることなくカタツムリたちを育てていってくれるよう願うばかりです。

来春、また暖かさと湿気が戻ってくるころに、動き始めたカタツムリに会えるでしょう。それまでお元気で～♪
(相馬)



殻の入口に、薄い膜『エピフラム』をはって、休眠中…
(2月下旬)

今頃、雪と落ち葉に守られて眠っているでしょう…



展示・行事のお知らせ

自然科学

絵本よみきかせ&学芸員の井戸端サイエンス

申込み不要・無料

日時 2月28日(土) 14:00~14:30
3月28日(土) 14:00~14:30

会場 札幌市博物館活動センター 展示室
※ベビーカーのまま入れます。館内におむつシート2台あり。

対象 3歳~大人 **定員** なし

2月テーマ：南極、気候変動

絵本：「ひょうざん」他2冊

3月テーマ：冬から春へ

絵本：「くまさんはおなかが すいています」他2冊

読み手：科学絵本よみきかせの会・じゅごん太

井戸端サイエンス担当：札幌市博物館活動センター学芸員

「井戸端サイエンス」とは？

学芸員が絵本の中から科学につながることを1つピックアップし、誰にでもわかりやすく楽しく、しかも10分程度にまとめてお話しします。普段は見られない標本を「蔵出し」することもありますよ。「豆知識が増えた」という大人の方の声も。子連れでなくてもOKです。



第6回自然探求サポート事業 成果報告展示 さっぽろの自然、めっけ！ Vol.6

申込み不要・無料

3月7日(土)~5月9日(土) 札幌市博物館活動センター展示室にて

08年度の疑問(テーマ)は、「木はどのくらい大きくなるのか?」(小学4年女子)、「土に還るとはどうか?分解されるとはどのようなことか?」(中学2年男子)の2件です。サポート研究者や学芸員の専門的アドバイスを受けながら、自分の疑問解決に取り組んだ結果です。



★成果報告発表会★ 皆さんの前でスライドを使って発表し、展示解説を行います。

3月28日(土) 13時~14時 札幌市博物館活動センター講義室 **入場無料**



札幌市博物館活動センターご案内

【開館時間】 10:00~17:00 【入館料】 無料 【休館日】 日・月曜日、祝日、年末年始

【住所】 〒060-0001 札幌市中央区北1西9丁目インケージプラザ5F

【電話】 011-200-5002 【FAX】 011-200-5003

● 駐車場はありません。近くの有料駐車場におとめください。

〈地下鉄〉 東西線西11丁目駅4番出口から徒歩5分

〈市電〉 西8丁目電停から徒歩8分

〈バス〉 「北1西7」停留所から徒歩3分

編集後記

来館者数 **60,865** 人 (2009年1月末現在)

連載「小さな生きもの、大事な宝物」は最終回を迎えました。カタツムリの1年の生活、いかがでしたか? 小さい連載でしたが、ここ1~2年でカタツムリについての問合せも増えました。カタツムリの専門家は全国的にもとても少ないそうなので、興味をもって調べてくれる人がでてくるとよいですね。(ま)

